

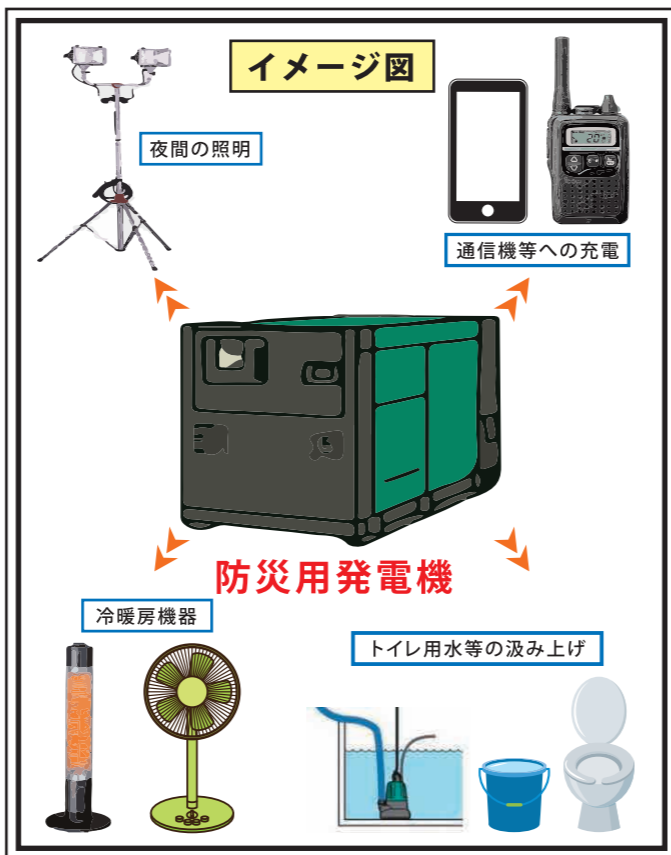
阿倍野区内の収容避難所に 防災用発電機が設置される方針です。



南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されており、また、直下型地震の震源となる活断層は日本中に分布しています。津波や地震火災、大雨による河川の氾濫も含め、防災対策や災害への備えが広く必要なのは言うまでもありません。中でも、4年前の東日本大震災や、20年の節目を迎えた阪神淡路大震災の教訓の1つに緊急用の電源の確保が指摘されております。

大規模災害時、外部からの救助・支援が期待できない発生直後の48時間（2日間）を電力の供給が途絶えた場合でもいかにして乗り切るか、また、長期にわたって続く避難所生活において、電力不足は大きな問題となります。

いまどき、何らかの形で電力を必要とする機器がほとんどであり、停電で電力が使えないことが大きな不便や不安、不快に繋がるのは明らかです。少なくとも避難所になるような施設では、夜間の照明や通信機器、トイレのポンプなど、イザという時、臨時の電源で必要な機器を動かし、機能するようにしておくことが望まれます。過去の教訓を元に、非常用発電装置や災害用の応急電源の手当てが必要だと思いますが、大阪市内を見渡しますと、避難所での防災用発電機の設置には行政区ごとにバラツキがあり、（ガソリン発電機や電気自動車からの供給装置・蓄電池を配備している区もあります）阿倍野区にはカセットガスポンプを使う発電機だけでした。



「自助・共助・公助」が連携し、防災意識を高める

私は今のままでは緊急時の対応に遅れが生じることを危惧し、指摘しておりましたが、今回ようやく、阿倍野区の平成27年度の運営方針で、収容避難所等に新たな防災用発電機を設置する方針になりました。これにより、災害によって停電が発生しても最低限の電力を確保することができます。今後は、防災用発電機に加え、蓄電池等の配備も必要と思います。

「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉があるように、いつ起こるのかわかりませんが、必ず災害は発生します。大きな被害が出て、年月が経つと人間はその痛みを忘れ、災害に対する警戒心が薄れてしまうのは否めません。人々の記憶はどんどん薄れていき、備えの重要性への意識も低下していきばかりです。まだ災害の記憶が新しい今のうちでなければ、出来ないことも多いような気がします。普段から各地域の皆様が実施している「まちなか防災訓練・収容避難所開設運営訓練」等はそのような忘れがちな防災意識を再認識する素晴らしい機会だと参加させて頂くたびに感じております。

今回、阿倍野区内の収容避難所で防災用発電機が設置されるのも、万全の対策に向けた備えの1つにすぎません。災害時の被害を最小限に抑えるために大切なのは、「自助・共助・公助」がうまくかみ合うことであり、日頃から防災意識を高めておくことと感じております。阪神淡路大震災のとき、救助された人のうち90%以上は自力や家族、近隣住民などによる救出でした。このように災害発生直後に大きな役割を果たすのは地域の防災力です。自分の身は自分で守る（自助）ことをしっかり理解し、自分たちのまちは自分たちで守る（共助）につなげていくことが重要だと思います。「共助」を実現するためには、日頃から近所の人たちと交流が大切になります。公助が活動を始めても、その援助の手が、円滑に一人ひとりの許に届くためには、共助との連携が不可欠です。こうした連携が、地域、そして自分の被害を最小限に抑え、震災に見舞われても早期に復旧・復興するために必要なことではないでしょうか。



阿倍野区避難所一覧

避難所名	所在地	避難所名	所在地
高松小学校	天王寺町北3-17-19	昭和中学校	桃ヶ池町2-3-17
常盤小学校本校	松崎町3-11-12	阿倍野中学校	昭和町3-2-4
常盤小学校分校	松崎町3-2-9	阪南中学校	北畠1-16-24
金塚小学校	旭町3-4-46	工芸高等学校	文の里1-7-2
苗代小学校	阪南町1-26-30	天王寺高等学校	三明町2-4-23
丸山小学校	丸山通1-4-43	阿倍野高等学校	阪南町1-30-34
長池小学校	長池町20-26	住吉高等学校	北畠2-4-1
阿倍野小学校	阪南町2-17-21	あべの翔学高等学校	天王寺町南2-8-19
晴明丘小学校	晴明通10-34	明浄学院高等学校	文の里3-15-7
晴明丘南小学校	帝塚山1-23-8	大谷高等学校	共立通2-8-4
阪南小学校	阪南町5-7-40	東大谷高等学校	共立通2-8-4
大教大附属天王寺小学校	松崎町1-2-45	桃山学院高等学校	昭和町3-1-64
文の里中学校	美章園1-5-52	大阪キリスト教短期大学	丸山通1-3-61
松虫中学校	松虫通3-4-45		

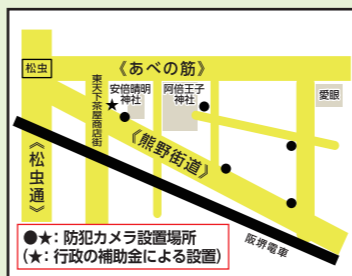
*一時避難所は除く

Pick Up あべの 阿倍野元町地域

地域で費用を出し合い

（一部、行政の補助金による設置）

防犯カメラシステムを設置されました。



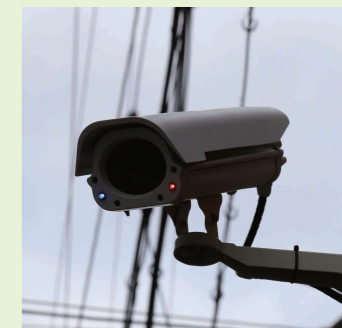
地域社会の安全・安心を守るために、阿倍野元町地域では住民の皆様が自主的に様々な地域安全活動に取り組んでいます（前号でご紹介させて頂きました住民有志による「ひふみ会」の防犯夜回り活動など）。この度、その1つとして、元町第一・第二・第三町会では防犯カメラを6台設置されました。

設置場所の確保から、維持・管理に至るまで、住民の皆様同士が話し合わせ、費用に関しては、町会をはじめ地域の皆様の尽力により資金を募りました（6台中1台は行政の補助金による設置）。

地域の犯罪を防止する力が低下するということは、自分自身も犯罪の被害に遭う恐れがあります。安全で安心して暮らしていくためには、警察がパトロールなどの活動を強化するだけでなく、そこに暮らす人たちが一体となり、自分たちの地域の安全を守るための活動をしていくことが重要と考えます。また、地域の皆様による自助、共助による犯罪防止や防犯意識の向上は地域コミュニティの形成を構築するためにもとても有効であると思われま。

今回のように、防犯カメラの設置ですが、資金の大半を地域で出し合うなど、こうした活動の一つ一つの積み重ねが「安心・安全」の街づくりの礎であり、自分たちの生活を自分たちで守るという住民自治の重要性を改めて感じました。地域全体で防犯対策に取り組んでいるということを知らしめることにより犯罪者が侵入しにくくし、街の価値を高めていくことに繋がります。

1つの地域での活動が阿倍野区内で拡がり、点と点が線になり、そして面となるように応援させて頂きたいと思っております。



日頃から準備しましょう

緊急時持ち出し品の例

- 缶詰
- 懐中電灯
- 予備の電池
- 飲料水
- 非常食
カロリー源、満腹感があり
軽くて小さいもの
- 携帯ラジオ
- マッチやライター
- タオル
- ちり紙
- 救急セット
- 缶切り・栓抜き
- 下着の替え
- 貴重品
- 雨具
- メガネなど日常生活に
欠かせないもの
- 手袋